糖尿病・内分泌内科

科長　大磯 ユタカ（教授）　12W

糖尿病・内分泌疾患に専門的な診断と治療を

糖尿病や内分泌疾患の幅広い疾患の診断から治療まで、精力的に取り組んでいます。

診療体制

診療担当医32名、糖尿病専門医11名、指導医３名、内分泌専門医７名、指導医３名を有し、外来診療は毎日５診、入院病床数22床で診療を行っています。

対象疾患

下垂体疾患（先端巨大症、クッシング病、下垂体機能低下症、尿崩症など）、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病など）、副腎疾患（クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など）、糖尿病、糖尿病合併症。

得意分野

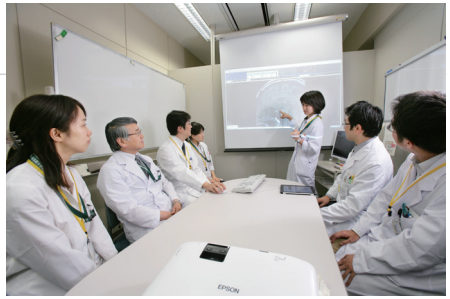
尿崩症をはじめ内分泌疾患全般に渡り専門的な診断と治療を行っています。甲状腺疾患については甲状腺エコー下穿刺、バセドウ病治療については放射線科と協力して内照射治療や球後照射を実施しています。糖尿病に関してはインスリンポンプ療法（CSII）や持続血糖測定システム（CGM）を取り入れた血糖コントロールに加え、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士と連携した糖尿病サポートチームによる総合的アプローチを行い、チーム医療としての糖尿病治療を進めています。

診療実績

外来患者数（延べ数）約28,000人／年、入院患者数（延べ数）約350人／年。

専門外来

内分泌診療として、下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など全般に渡り、専門的な診断および治療を行っています。糖尿病診療として、栄養指導やフットケアなど療養指導に積極的に取り組んでいます。



先進医療・研究

中枢性尿崩症の研究、肥満症に対する研究、SIADHに対する新たな治療法、リンパ球性下垂体炎の研究、糖尿病における膵β細胞、脂肪細胞および腸管の機能等を研究しています。

腎臓内科

科長　丸山 彰一（特命教授）　10E

腎臓に関するあらゆる疾患に最新の療法で取り組む

さまざまな腎疾患を正確な根拠に基づいた情報を慎重に検討し、患者と家族から十分理解を得て治療しています。

診療体制

約 15 名の常勤医および非常勤医で構成されています。腎臓内科専門医の教員が中心となり、診療に当たっています。週２回カンファレンスを行い、診療科として方針を決定しています。

対象疾患

腎炎・ネフローゼ症候群、腎不全、高血圧性腎障害、糖尿病性腎症などの腎疾患、膠原病・全身性血管炎症候群、および腎移植後の管理や電解質・酸塩基平衡異常に至るまで、腎臓に関するすべての疾患。

得意分野

腎病理診断、腎代替療法、難治性ネフローゼ症候群・膠原病・遺伝性疾患などに対して、シクロスポリン・タクロリムスなどによる新たな免疫抑制療法やαグルコシダーゼ補充療法などに積極的に取り組んでいます。

診療実績

年間入院患者323人、腎生検病理診断数608人（当院47人・関連施設561人）、新規透析導入患者35人（血液透析24人、腹膜透析11人）、その他（血漿交換療法や選択的血球成分吸着療法、延べ人数287人）。

専門外来

腹膜透析外来、慢性腎障害（CKD）外来。

先進医療・研究

ハイリスク患者に対する腹腔鏡下腎生検（泌尿器科との連携）、脂肪幹細胞による腎再生の研究、急性腎障害に対する尿中バイオマーカーの開発、RAS抑制分子による降圧薬の開発、腹膜線維化の機序の解明を行っています。